



プラスα提案編

ルールとマナーの違いはルールは守ることができてプラスマイナスゼロ、マナーはできるとプラスαだということを前号で書きました。

先日の出来事です。信号のない横断歩道に数人の大人と子供が待っていましたので車を止めて渡ってもらいました。教習所で習った通り（ルール通り）ですから当たり前のことですし、歩行者も渡るのはルール通りです。

その中でお母さんと思われる方のひとりがこちらに向かって会釈をされました。その気遣い（マナーの部分）にうれしくなりました。ありがとうございました。

しかし、こどもたちはこちらを見ることもありません。「惜しいなあ、絶好のチャンスなんだけどなあ」と思いました。

ルールだから譲るのは当たり前なのですが、ここで譲り合えたことに感謝して会釈できると、みんなが豊かな気持ちになります。そのことをこどもたちに伝えていただいて、やらせて、また同じような場面でできるかどうかを見てほしいのです。できなければまた、やらせますし、できたらそれこそ万々歳です。たっぷり褒めてあげられます。

このように場面を捉えて「学ばせる」と、次にほめるチャンスが増えるのです。「できて当たり前のこと」ができてほめるだけでなく、できたらいいなあと思われることも「教えて、やらせて、ほめる」とほめるチャンスが増えていきます。人はたいていの場合「ほめられて伸びる」ものです。こどもたちにマナーを学ばせることは、ほめるチャンスを増やすことになります。プラスαを「やって見せて気づかせて、やらせて、できたらほめて」こどもたちを伸ばしていきたいものです。何事も仕掛けが大切です。これが、プラスαを学ばせる理由のひとつです。

もう一つはやはり、そんなプラスαの行動ができる大人になってほしいと願っているからです。社会に生きるみんなが、お互いに気持ちよく暮らすための行動ができるようになったら、こんなすばらしい社会はないと思います。

なかなかそんな社会にはならないと思われる方もあるかも知れませんが、わたしたちは未来の社会を作る種まきをしなければなりません。小学校の保護者の皆さんにも、身近なところから少しずつですが意識して、ほめて伸ばす仕掛けをしていただけたらうれしいです。よろしくお願いします。

【学級読書 3週目】

読書への取り組みの一環として、図書館の貸出冊数を学級毎に集計して3週目になりました。2の3が3週間で656冊を借りて先週に引き続きトップ。中学年では3の1の599冊、高学年では5の1の487冊がトップでした。3の2が新たに目標をクリアし、5の3も冊数がグンと伸びてきました。高学年の6クラスがすべて目標をクリアしているのはすごいです。本はじわじわ効いてきます。